

連合神奈川ピースウィークにあたって



1945年8月、広島・長崎に人類史上はじめての原子爆弾が投下されてから、75年目の夏を迎えました。

連合神奈川では、8月6日の広島への原爆投下から8月9日の長崎への原爆投下を軸として、「核兵器廃絶」のに向けた「連合神奈川ピースウィーク～核兵器ゼロの世界をめざして～」をスローガンに「平和首長会議」加盟の首長と連携し、各地域で街頭活動等に取り組んでまいりました。

しかし、今年は新型コロナウイルス感染が拡大し終息の目途が立たない中であり、参加者の健康と安全を守るとともに、感染拡大防止の観点から街頭活動は実施せず、連合神奈川のホームページにインターネット会場を開設する形式に変更することとしました。

投下された原子爆弾の閃光と炎の壁が、一瞬にして街を破壊し多くの市民の、とおと命が奪われてしまいました。こうした核兵器の恐怖は、世界中の多くの人々が認識しているにもかかわらず、今も世界には、抑止力として13000発以上の核兵器が存在しており、人類は核兵器の脅威から今もなお解放されていません。

しかし、核兵器の廃絶に向けての動きも進んでいないわけではなく、その一つとして2017年7月には核兵器禁止条約が国連本部で採択されました。また、核兵器不拡散条約（NPT）の取り組みも見られます。

しかし、残念ながら核兵器の保有を一律で禁止する国際的な枠組みは出来ていません。核兵器ゼロの世界をめざして、粘り強く取り組んでいかなければなりません。

75年たった今でも、多くの被爆者が放射線障害などで苦しんでいます。いつか、核兵器の恐怖を証言する被爆者の声も聞けなくなる日が来るでしょう。

私たちは、世界で唯一の被爆国として、核兵器の恐怖を世界の人々に広げ、次の世代にも受け継いで、核兵器廃絶に向け核兵器禁止条約締結の早期実現に向けて行動していきましょう。

2020年8月
連合神奈川
会長 吉坂 義正